

【一般社団法人ママとね】

地域とつながる、魅力的なライフスタイルを構築するための取組

I. 子育て層にとっての東部の魅力

- ・豊かな自然
- ・安心安全な住環境
(美味しい水、空気、比較的静かな環境、密集しない)
- ・充実する家族時間
(山も海も近い、キャンプ場、公園の充実、温泉地等)
- ・安い固定費(住居費等)
- ・人が繋がりがやすい、街の規模感。



II. 地域特性を活かした子育てライフの提案。

①情報(ウェブサイト & SNS): 「知る」

〔目的〕子育て中の当事者目線で、地域のイベント、公園情報等を提供。→地域の魅力を知ってほしい、繋がる場に出かけてほしい

〔経緯〕転入時、子育てに関するローカル情報がなく地域と繋がる機会がなかなか見つけられなかった。

〔現在〕静岡県東部子育て情報ウェブサイト「ママとね」の運営、SNS(Facebook, LINE, Instagram)合計フォロワー数のべ6000人



②アクション: 「行動する」

各種イベントを企画し、繋がる場を創出する。

例1:官民協働子育てイベント(日清プラザ、イトーヨーカドー三島店、三島市、ママとねの4団体協働)。2017年から毎年開催、5日間連続。

例2:地域の特徴的な会社、団体とコラボしたイベント

沼津牛臥海岸でのイベント(海洋プラスチック問題/サバソニ)、地元生産者と組んだ「命をいただく」食育イベント等



③常在する、地域と繋がる「場」

→一箱本棚オーナー型の私設図書館『あひる図書館』の開設(2021.11月)

III. 一箱本棚で街と繋がるライブラリー「あひる図書館」 (2021年11月開設)

❖ 一箱本棚オーナー型とは？

焼津で土肥潤也氏が2020年3月にはじめた「みんなの図書館さんかく」という私設図書館で始めた、ユニークな仕組み。

本棚の一箱一箱にオーナーがおり、オーナーは月2000円を支払ってそのスペースを借り自分の好きな本を並べる。本を借りる方は無料。つまり本を貸すほうがお金を払う不思議なシステムだが、全国にファンが続出し、同じシステムの図書館が現在全国に25館でいど開設されている。



❖ 「ママとね」がこの一箱本棚オーナー型を採用した理由

〔一箱本棚オーナー〕 ママとねの7年強の活動を通して繋がった人。地域の会社経営者から自治体職員、老舗の商店街店主、飲食店オーナーシェフ、アーティストから主婦まで老若男女、地域の多様な顔ぶれ40名でスタート。(現在、キャンセル待ちが多数いる)

〔利用者〕 親子層を含む地域のあらゆる人

→本を通して、その場に本棚オーナーが滞在していなくても、地域の魅力ある人々と“時空を超えて”繋がる仕組み。



実際の本棚は30cm四方で統一。

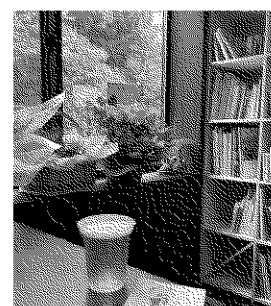
❖ 「あひる図書館」を開設した場所

新型コロナで使われなくなった飲食店の宴会場

(三島駅南口から徒歩7分「四季酒彩 風土」内)

→ 図書館は、飲食持ち込みOKとし、階下の飲食店での購入も可能

「本を読む場所」 + 「居場所」 の提供を日指している。



図書館でお酒も飲める

❖ 「あひる図書館」のこれから ~本を通してあらゆる世代が繋がっていく~

- ✓ 本棚オーナー交流会： おススメの一冊持ち寄り交流会 → 一般へ拡大
- ✓ ビブリオバトル： テーマ別、漫画もあり (小学生から参加できる)
- ✓ 本を通じた街づくり → 街づくりに興味のある学生へのアプローチ
- ✓ 読み聞かせ、読書会 (Active book dialogue 開催済み) 等

あひる図書館

場所： 三島市芝本町9-12 飲食店「風土」内 2F

開館時間： 平日10:30-17:00、金曜のみ19:00-21:00 夜開館もあり、祝祭日は不定期開館

ウェブサイト： <https://mamatone.net/ahiru-library/>

運営： 一般社団法人ママとね